

県立特別支援学校編成整備に関する懇話会(第7回)

議事次第

1 日 時 平成23年11月21日(月) 13:00～15:00

2 場 所 県庁12階第4会議室

3 次 第

- (1) 事務局説明(資料1)
- (2) 議題①:施策3について(素案 P6)
- (3) 議題②:施策4について(素案 P7、資料2)
- (4) 事務連絡(事務局)

4 資 料

資料1 他県の特別支援学校知的障害高等部における福祉関連コース

資料2 医療機関等に隣接する特別支援学校の運営形態について(施策4関連)

資料 1

他県の特別支援学校知的障害高等部における福祉関連コース

No.	校名 【学科名】 (開始年度、学年定員)	学科の内容 (ホームページより引用)
1	北海道札幌稲穂高等支援学校 【福祉サービス科】 (H23年、8人)	介護・家事援助や接客などの学習を通して、勤労の体験を豊かにし、その意義を理解できるようにするとともに、職業自立など社会自立に必要な基礎的・基本的な能力を高め、実践的な態度を育てる。
2	北海道小樽高等支援学校 【福祉サービス科】 (H21年、16人)	福祉分野(社会福祉基礎、介護技術、家事援助技術、施設見学・体験実習) サービス分野(サービス基礎、接客実習、店舗見学・体験実習)
3	秋田県立栗田養護学校 【環境・福祉科】 (H22年、8人)	ビルクリーニングや介護関係、情報処理関係の学習に取り組む。1年次では、生徒たちが自分の適正を見いだす過程を支援するため、ビルクリーニングと介護関係の両方の学習に取り組む。介護関係では、全員が「訪問介護員研修2級課程」を受講する。
4	さいたま桜高等学園 【家政技術科】 (H19年、20人)	福祉コースと服飾デザインコースから構成。1年次は福祉と服飾デザインの基礎を学習し、2年次より福祉コースと服飾デザインコースに分かれて、それぞれの専門的な知識・技能を学ぶ。福祉コースは、高齢者等の介護技術を学ぶコースで、ホームヘルパー2級のカリキュラムに基づいて、学習する。
5	東京都立永福学園 【就業技術科】 (H19年、100人)	流通・サービス系列には、ビルクリーニングコースとロジスティクスコース、家政系列には、食品コースと福祉コースを設置。1年次のトライアル実習(校内模擬現場実習)や就業体験(インターンシップ)、2、3年次の産業現場等における実習などを行い、専門的な職業能力の育成を図るとともに、生徒の職業適性を的確に把握する。3年次には、各系列の学習の発展型として、専修学校等での資格取得を経ての企業就労を目指すキャリアアップコースを設置する。福祉コースは、ホームヘルパー2・3級程度の知識や技能、関連する接遇マナー等を学習。
6	東京都立青峰学園 【就業技術科】 (H21年、40人)	エコロジーサービスコース、ロジスティクスコース、食品コース、福祉コースがある。福祉コースでは、介護や接客の基本的な技能や態度を学ぶ。介護は高齢者や視覚障害者の移動支援、シーツの交換や着替えの介助などを体験を通して学んでいく。
7	東京都立南大沢学園 【就業技術科】 (H22年、100人)	食品コース、ロジスティクスコース、エコロジーサービスコース、福祉コース、ビルクリーニングコースがある。福祉コースでは、介護・ホテルサービスの技術とおもてなしの心を学ぶ。介護技術・各種清掃業務、接客・ビジネスマナーに関する活動、訪問介護員2級資格講座開設予定。
8	富山聴覚総合支援学校 【福祉・サービス科】 (H21年、8人)	「福祉」と「流通サービス」に関する基礎的な知識や技能を習得し、それを活用する能力を高める。体験活動を多く取り入れ、社会生活や就労に必要な能力と態度を育てる。2学年からは専門教科の「福祉」と「流通・サービス」のどちらかを選択して専門的に学習を進める。
9	高岡聴覚総合支援学校 【福祉・サービス科】 (H22年、8人)	介護実習、清掃作業。

医療機関等に隣接する特別支援学校の運営形態について（施策4 関連）

1 基本方向における目標設定（方針1 目標4）

「医療機関等に隣接し主にその入所者を受け入れる特別支援学校においては、隣接施設からの通学者の見通し等を踏まえ、運営形態を本校、分校又は休校とする」

2 目標の設定の経緯

当初、「桜野特別支援学校及び森川特別支援学校を平成28年度までに分校とする」としていたが、県民意見等を踏まえ実態のより詳細な現状把握や保護者をはじめとした学校関係者と意見交換会が必要であると判断し、分校化等は、実施計画で検討するとした。

3 保護者、隣接施設との意見交換

森川特別支援学校（10月12日実施）

【保護者】

- ・森川特支は少人数だけに、静かな環境、病弱教育の専門性、教諭の連携の強さ、アットホームな雰囲気といった良さがある
- ・鏡が丘特支に移るにしても、森川特支の良さを引き継げるようにしないとダメだ

【隣接施設：沖縄病院】

- ・改築後の筋ジス病棟ではベット数は増えない。また、新たな渡り廊下もつくらない
- ・改築後は、他の病院のように院内学級のような体制をとることを検討したい

桜野特別支援学校（10月17日実施）

【保護者】

- ・通学生のほとんどがリハビリ等で療育園と関わりを持っている。北部地域の肢体不自由児が減少するわけではないので、園の入所者だけを見て判断するのはよくない
- ・知的障害との障害の特性が違うので、名護特支では事故やストレスへの懸念がある
- ・桜野特支のプールは屋内なので長期間使え、肢体不自由の子どもにとって良い

【名護療育園】

- ・現在改築中だが、改築後もベット数は増えない。学齢期の子どもは減少するだろう
- ・園の調理業務は委託なので、業者が可能であれば給食も委託できるかもしれない

4 意見交換を受けた実施計画における記述

素案7ページ 施策4 「看護師配置の拠点化と学校運営体制の見直し」

- ・桜野特別支援学校は本校として運営を続け、看護師配置拠点校とする

【理由】通学生のほとんどが隣接施設と関わりを持ち、連携をうまく図っている。また、通学生を名護特別支援学校に転学する場合には、名護特支に新たな整備が必要

- ・森川特別支援学校は平成27年度末で休校とし、鏡が丘特別支援学校に機能を移行する

【理由】平成27年度より沖縄病院からの通学生がおらず、その後に入學しても院外学級の対応になる。また、通学生と沖縄病院との関わりが少ない